

精神神経医学

1 構成員

	平成15年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	2人（0人）
助手（うち病院籍）	5人（2人）
医員	1人
研修医	9人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	8人（1人）
研究生	1人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	4人
合 計	33人

2 教官の異動状況

森 則夫（教授）	（H8. 4. 1～現職）
武井 教使（助教授）	（H12. 10. 1～現職）
三辺 義雄（講師）	（H13. 5. 1～現職）
中村 和彦（講師）	（H14. 7. 1～現職）
河合 正好（助手）	（H8. 7. 1～現職）
岩田 泰秀（助手）	（H10. 1. 1～現職）
豊田 隆雄（助手）	（H13. 4. 1～現職）
谷 邦彦（助手）	（H12. 4. 1～現職）
根木 真一（助手）	（H14. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成14年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	13編（1編）
そのインパクトファクターの合計	26.01
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3編（3編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（1編）

(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	2編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	6.08

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Won M, Minabe Y, Tani K, Suzuki K, Kawai M, Sekine Y, Ashby CR, Takei N, Mori N. The effects of dentate granule cell destruction on behavioral activity and Fos protein expression induced by systemic MDMA in rats. *Neurosci Res* 2003; 46 (2): 153-60.
2. Nakamura K, Iwahashi K, Ameno K, Sekine Y, Suzuki K, Minabe Y, Mori N. CYP2E1 and clinical features in alcoholics. *Neuropsychobiology* 2003; 47 (2): 86-9.
3. Nakamura K, Fukunishi I, Nakamoto Y, Iwahashi K, Yoshii M. Peripheral-type benzodiazepine receptors on platelets correlate with the degrees of anxiety in normal human subjects. *Psychopharmacology* 2002; 162: 301-303.
4. Ogai M, Matsumoto H, Suzuki K, Ozawa F, Fukuda R, Uchiyama I, Suckling J, Isoda H, Mori N, Takei N. fMRI study of recognition of facial expressions in high-functioning autistic patients. *Neuroreport* 2003; 14 (4): 559-63.
5. Iwata Y, Matsumoto H, Minabe Y, Osada N, Nakamura K, Sekizawa T, Suzuki K, Sekine Y, Takei N, Mori N. Early-onset schizophrenia and dopamine-related gene polymorphism. *Am J Med Genet* 2003; 116B (1): 23-6.
6. Sekine Y, Minabe Y, Kawai M, Suzuki K, Iyo M, Isoda H, Sakahara H, Ashby CR Jr, Takei N, Mori N. Metabolite alterations in basal ganglia associated with methamphetamine-related psychiatric symptoms. A proton MRS study. *Neuropsychopharmacology* 2002; 27 (3): 453-61.
7. Ando K, Takei N, Matsumoto H, Iyo M, Isoda H, Mori N. Neural damage in the lenticular nucleus linked with tardive dyskinesia in schizophrenia: a preliminary study using proton magnetic resonance spectroscopy. *Schizophr Res* 2002; 57 (2-3): 273-9.

インパクトファクターの小計 [19.553]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Wang C, Shimizu-Okabe C, Watanabe K, Okabe A, Matsuzaki H, Ogawa T, Mori N, Fukuda A, Sato K. Developmental changes in KCC1, KCC2, and NKCC1 mRNA expressions in the rat brain. *Brain Res Dev Brain Res* 2002; 139 (1): 59-66.

インパクトファクターの小計 [2.489]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Takimoto T, Nakamura K, Ueno H, Matsuda M, Fukunishi I, Ameno K, Iwahashi K. Major depression and heat shock protein 70-1 gene. *Clin Chim Acta* 2003; 332 (1-2): 133-7.
2. Xiong ZQ, Qian W, Suzuki K, McNamara JO. Formation of complement membrane attack complex in mammalian cerebral cortex evokes seizures and neurodegeneration. *J Neurosci*

2003; 23 (3): 955-60.

3. Inoue M, Nakamura K, Iwahashi K, Ameno K, Itoh M, Suwaki H. Changes of bcl-2 and bax mRNA expressions in the ethanol-treated mouse brain. Jpn J Alcohol & Drug Dependence 2002; 37: 120-129.
4. Muneoka K, Shirayama Y, Minabe Y, Takigawa M. Effects of a neurosteroid, pregnenolone, during the neonatal period on adenosine A1 receptor, dopamine metabolites in the fronto-parietal cortex and behavioral response in the open field. Brain Res 2002; 956: 332-338.
5. 山嶋哲盛, 吉田真奈美, 熊橋一彦, 松井三枝, 越野好文, 植木 彰, 大塚美恵子, 青木省三, 森 則夫, 星野良一, 三辺義雄, 難波吉雄, 吉良潤一, 三浦伸義, 木村慎吾, 松下正明. アーバンス神経心理テストによる高次脳機能評価. 脳と神経 2002; 54: 463-470.

インパクトファクターの小計 [11.969]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
 1. 高貝 就, 森 則夫, 武井教使. 精神分裂病と養育期における環境要因. 臨床精神医学 2002; 31 (5): 515-520.
 2. 中村和彦. 発達障害の生物学的精神医学の誘い. 新アスペハート 2002; 2: 117-120.
 3. 森 則夫. 精神分裂病最近の話題. これからのメンタルヘルス 2002; 20: 3-8.

インパクトファクターの小計 [0.00]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
 1. 森 則夫 (分担執筆). 医学大辞典 (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨 総編集), 2002, 医学書院.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Won M, Minabe Y, Sekine Y, Takei N, Kondo N, Mori N. Manic-switch induced by fluvoxamine in abstinent pure methamphetamine abusers. J Psychiatr Neurosci 2003; 28: 134-135.
2. Takebayashi H, Takei N, Mori N. Unilateral auditory hallucinations in schizophrenia after damage to right hippocampus. Schizophrenia Res 2002; 58: 329-331.

インパクトファクターの小計 [6.083]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成14年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成14年度
(1) 文部科学省科学研究費	3件（750万円）
(2) 厚生科学研究費	1件（300万円）
(3) 他政府機関による研究助成	0件（万円）
(4) 財団助成金	2件（1,680万円）
(5) 受託研究または共同研究	1件（400万円）
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	33件（3,300万円）

(1) 文部科学省科学研究費

武井教使（代表），基盤（B），新規，450万円 精神分裂病ハイリスク児における産科合併症および神経心理学的・脳形態学的変数との関連

森 則夫（代表），萌芽研究，新規，220万円 精神分裂病における神経細胞分化に関わるポリシアル酸合成酵素の遺伝子多型と機能解析

河合正好（代表），萌芽研究，継続，80万円 アルツハイマー病の前臨床段階における診断法の開発

(2) 厚生科学研究費

三辺義雄（分担），厚生労働省こころの健康科学研究事業，新規，300万円 機能性精神疾患の系統的遺伝子解析 代表 吉川武男（理化学研究所脳科学総合研究センター分子精神科研究チームリーダー）

(4) 財団助成金

武井教使（代表），Stanley Foundation (USA)，継続，\$ 100,000（約1,200万円）Pathogenesis of schizophrenia and mood disorders

関根吉統（代表），Stanley Foundation (USA)，継続，\$ 40,000（約480万円）Double-blind placebo controlled study of the adjunctive effect of pergolide, a D1/D2 agonist, on persistent negative symptoms in schizophrenia

(5) 受託研究または共同研究

森 則夫（代表），住友製薬，新規，400万円 PETを用いたペロスピロンのドパミンD2及びセロトニン2A受容体占拠率に関する研究

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	1件
(2) シンポジウム発表数	2件	2件
(3) 学会座長回数	1件	3件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	1件	10件
(6) 一般演題発表数	6件	

(1) 国際会議等開催・参加：

1) 国際学会・会議等の開催

1. 森 則夫，世界精神医学会横浜大会運営委員，2002. 8. 24-29，横浜，参加者 約6,000人。

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. 武井教使. Voxel-based analysis of brains in childhood-onset schizophrenia: an MRI study. Symposium S-23, XII World Congress of Psychiatry, August 24-29, 2002, Yokohama, Japan.

2. 武井教使. Is genetic predisposition associated with an excess of obstetric complications in schizophrenia? Symposium S-219, XII World Congress of Psychiatry, August 24-29, 2002, Yokohama, Japan.

4) 一般発表

ポスター発表

1. Matsuzaki H, Minabe Y, Mori N, Sato K. BDNF inhibits apoptosis induced by methamphetamine in primary cortical neurons through activation of ACT kinase. The 57th Annual Meeting of Society for Biological Psychiatry, May 17, 2002, Philadelphia, USA.
2. Sekine Y, Minabe Y, Iyo M, Ashby CR, Takei N, Mori N. Metabolite alterations in basal ganglia associated with methamphetamine-related psychiatric symptoms: a proton MRS study. The 32th Annual Meeting of Society for Neuroscience, November 4, 2002, Orlando, USA.
3. Won M, Minabe Y, Tani K, Ashby CR, Mori N. The effects of dentate granule cell destruction on behavioral activity and Fos protein expression induced by systemic MDMA in rats. The 32th Annual Meeting of Society for Neuroscience, November 4, 2002, Orlando, USA.
4. Toyoda T, Ogai M, Sakanoue M, Ozawa F, Fukuda R, Mtsumoto H, Suckling J, Mori N, Takei N. Grey matter changes in early-onset schizophrenia: a voxel-based morphometric study. Organization for Human Brain Mapping. June 2-6, 2002, Sendai, Japan.
5. Matusmoto H, Ogai M, Suzuki K, Ozawa F, Fukuda R, Uchida I, Isoda H, Mori N, Takei N. Functional MRI study of recognition of eye expression in high-functioning autistic patients. Organization for Human Brain Mapping. June 2-6, 2002, Sendai, Japan.
6. Morita N, Yasuhara O, Aimi Y, Tooyama I, Mori N, Kimura H. Neuronal IgG uptake precedes hippocampal cell damage in the rat kainite model of epilepsy. The 4th Asian and Oceanian Epilepsy Congress, September 11-14, 2002, Karuizawa, Japan.

(2) 国内学会の開催・参加

1) 学会における特別講演・招待講演

1. 武井教使. 精神医学的研究の実施・完遂戦略. 第21回躁うつ病の薬理・生化学的研究懇話会, 2002年6月7日, 東京.
2. 鈴木勝昭. 統合失調症と神経幹細胞. 第11回海馬と高次脳機能学会, 2002年11月23, 24日, 浜松.

2) シンポジウム発表

1. 森 則夫, 鈴木勝昭, 三辺義雄. 統合失調症の病態生理と神経幹細胞. 第76回日本薬理学会, 2003年3月24-26日, 福岡.

3) 座長をした学会名

1. 武井教使. 第11回海馬と高次脳機能学会, 2002年11月23, 24日, 浜松.
2. 三辺義雄. 第11回海馬と高次脳機能学会, 2002年11月23, 24日, 浜松.
3. 三辺義雄. 第25回日本生物学的精神医学会, 2003年4月16-18日, 金沢.

4) 主催する学会名

第11回海馬と高次脳機能学会, 11月23, 24日, 浜松.

5) 役職についている学会名とその役割

森 則夫 日本脳科学会 理事
森 則夫 日本てんかん学会 評議員
森 則夫 日本神経化学会 評議員
森 則夫 日本生物学的精神医学会 評議員
森 則夫 日本サイコセラピー研究会 理事
森 則夫 日本精神神経学会 評議員
三辺義雄 日本てんかん学会 評議員
三辺義雄 日本生物学的精神医学会 評議員
三辺義雄 日本神経精神薬理学会 評議員
三辺義雄 海馬と高次脳機能学会 幹事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリース数は除く)	0件	4件

(2) 外国の学術雑誌の編集

武井教使 Schizophrenia Research, Editorial Board
武井教使 International Review of Psychiatry, Editorial Board
武井教使 European Psychiatry, Editorial Board
武井教使 Acta Psychiatrica Scandinavica, Editorial Board

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース

9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成14年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 統合失調症の発症危険因子の探索

母子手帳の情報をもとに精神分裂病の発症危険因子を検索している。分裂病者の母親は、児を妊娠している時の検診回数が少ない。

2. 覚醒剤依存の脳内動態

覚醒剤乱用者では脳内セロトニン・トランスポーターが低下していることを見出した。

3. 神経幹細胞機能異常としての統合失調症モデルの作成

成熟ラットの脳にX線を照射すると、脳には明らかな形態学的異常を伴わずに、メタンフェタミンに対する反応性が増大し、また、その他の統合失調症の特徴を示すことを確認できた。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

神経幹細胞機能異常としての統合失調症モデルの作成

15 新聞、雑誌等による報道